

注 意 報

農技セ第5511号
令和7年7月22日

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和7年度農作物病害虫発生予察情報について

令和7年度農作物病害虫発生予察注意報第3号を発表したので送付します。

令和7年度病害虫発生予察注意報第3号

令和7年7月22日
徳 島 県

7月第2・3半旬に行った巡回調査において、サツマイモ、イチゴ（育苗期）栽培圃場のハダニ類（図1、2）の発生が平年に比べて多く、今後、本虫による被害の拡大が予想されますので、注意報を発令します。

生産現場におきましては、発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除指導をお願いいたします。

作物名：野菜類（サツマイモ、冬春イチゴ（育苗期））

病害虫名：ハダニ類

1. 発生地域 県北東部のサツマイモ栽培地帯、県内全域のイチゴ栽培地帯
2. 発生時期 7月下旬～
3. 発生程度 サツマイモ：少～中、冬春イチゴ（育苗期）：少（いずれも前年より多く、平年より多い）
4. 注意報発令の根拠
 - (1) 7月第2半旬のサツマイモの巡回調査では、発生圃場率が75.0%、寄生葉率が14.6%と、平年(20.7%、2.9%)に比べて高い。
 - (2) 7月第2・3半旬の冬春イチゴ（育苗期）の巡回調査では、発生圃場率が61.5%、寄生株率が3.8%と、平年(17.3%、1.4%)に比べて高い。
 - (3) 7月17日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並で、日照時間は多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
5. 防除法等
 - (1) 多発すると防除が困難になるため、表1～2を参考に、発生初期から防除を行う。
 - (2) 薬剤は十分な量で葉裏にも付着するように丁寧に散布する。
 - (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。
 - (4) その他、防除等の詳細については、徳島県植物防疫指針(URL:<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/tokushima>)を参照するとともに、薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。



図1 サツマイモ葉への被害

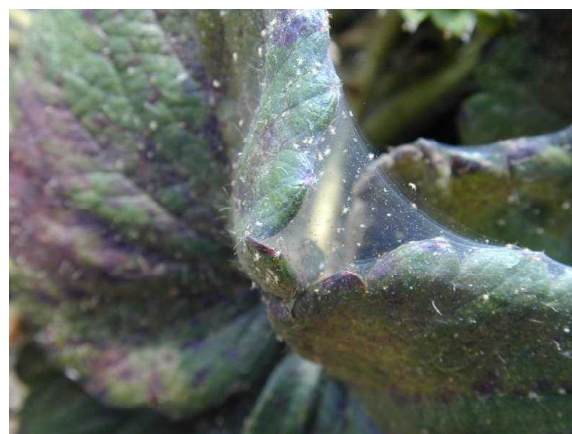


図2 イチゴ葉への被害

表1 サツマイモでハダニ類に登録のある農薬(登録内容：2025年7月10日現在)

農薬の名称	希釈倍数	散布液量	使用時期	使用回数	RACコード
グレース乳剤	2000倍～3000倍	100～300L/10a	収穫7日前まで	2回以内	30
コテツフロアブル	2000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	2回以内	13
コロマイト乳剤	1000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	2回以内	6
サンマイトフロアブル	1000～1500倍	100～300L/10a	収穫前日まで	2回以内	21A
ダニサラバフロアブル	1000倍	100～350L/10a	収穫前日まで	2回以内	25A
粘着くん液剤 ^{*1}	100倍	150～300L/10a	収穫前日まで	－	－
マイトコーネフロアブル	1000倍	100～300L/10a	収穫3日前まで	1回以内	20D

^{*1} 気門封鎖系薬剤

表2 イチゴでハダニ類に登録のある農薬(登録内容：2025年7月10日現在)

農薬の名称	希釈倍数	散布液量	使用時期	使用回数	RACコード
アーデント水和剤	1000倍	150～300L/10a	収穫前日まで	4回以内	3A
アカリタッチ乳剤 ^{*1}	1000～3000倍	100～400L/10a	収穫前日まで	－	－
カネマイトフロアブル	1000～1500倍	150～300L/10a	収穫前日まで	1回以内	20B
コテツフロアブル	2000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	2回以内	13
コロマイト水和剤	2000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	2回以内	6
サンマイトフロアブル	1000～1500倍	100～300L/10a	収穫開始3日前まで	1回以内	21A
ダニコングフロアブル	3000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	1回以内	25B
マイトコーネフロアブル	1000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	2回以内	20D

^{*1} 気門封鎖系薬剤